

シベリア慰霊の旅（短歌）

静岡県 田村 亀吉

野の花 テルマ墓地

戦友の墓地は何処ぞ

雨に濡れ白樺林のけもの径行く

眼をとじて深く祈りぬ

たをれたる友等が眠る荒れし墓原

戦友の鬼哭の涙か夏ながく冷たき雨は墓前を濡す

簡素ながら心をこめし祭壇に

ロシアの乙女が捧ぐ野の花

戦友よすまぬ誠にすまぬ

此の広きシベリア大地に抱かれ眠れ

香の煙 クリドゥール墓地

戦友のいのち幾たり奪いしや

シベリアタイガつらぬく鉄路

日本人墓地此の奥と聞く

さみどりに蕨萌えたつ杣径登る

亡き戦友のおらぶ声かも

クリドゥールの峠に銜しひとつかみなり

大方は自然に還り葬り処を

僅にとどむクリドゥール墓地

懇ろに吾等が手向く香の煙原生林の奥に消えゆく

草の褥 敗戦行

平房―阿城―海林・中間集結地へ

次つぎに武装を解かる兵吾れは

剣を差し出すソ兵の前に

戦捷を祝して青天白日旗戸毎に掲ぐ村落を過ぐ

真夜中の峠は嶮し殿に遅れし兵を助けつつ越ゆ

戦いを遁れ去りし人気なき開拓団の村中の道

隊列はいつしか崩れ乱れつつ屍臭漂ふ林を抜ける

幾夜さを野営かさねて此の夜半の

草の褥は雨に濡れたり

軍歴

昭和十五年八月二十日 現役兵として広島集合地  
於 第八航空教育隊に入  
隊

昭和十五年八月二十八日 駐屯地牡丹江省海浪着

昭和十五年九月十日 第十野戦航空廠へ転属

駐屯地三江省佳木斯

昭和十六年七月 関特演に依第十野戦航

空修理廠と改編

一 航訓練終了後、製図

技兵として技術部勤務

技術伍長 本部勤務

昭和二十年三月一日

功績事務 昭和二十年八月二十三日 平房飛行場にて武装解

除

昭和二十年十一月 入ソ 以降 テルマ

二〇七分所

主なる工事。シベリア鉄道本線イズベス  
トコーバヤ駅から北上、テルマを経てウル

ガルでバーム鉄道と交差、全長三五六キロ  
メートルのウルガル鉄道の敷設、特にテル  
マ河鉄橋の架設は難工事

昭和二十四年九月一日 山澄丸にて舞鶴港上

陸、復員